

旬刊

東北の工商時報

行發日廿日十日一回三月每
 行發集印編編
 吉梅越堀
 三廿町川新町平縣島福
 社報時工商北東 所行發
 圓一金行一 料告廣
 錢月ヶ一 錢十金 部一
 圓三共稅郵年ヶ一

目丁五町平

屋(久)釜

番九九話電

一週年の辭

現下の我國に於ける深刻なる不景氣は世界共通の經濟的現象であつて特に我國が最も慘烈なる打撃を受けて居るのは封建鎖國時代の因襲より脱するを得ず國に眞に經濟的生活がなく歐洲大戰役不健全に膨大した經濟界產業界等が其後必然的に整理緊縮を斷行すべきであつたにも拘らず政府當局及び民間事業家が放漫無策にして成金時代の夢を貪つて來たが爲めであつて現在の我國の產業界經濟界は正に根本的に立直しを爲すべき革命時代に達着したるものであると信じます

從來世界列強の關係は武装したる外交政であつたが今後は軍國主義を放棄して經濟的戰闘の時代に入つたものと思ふ、此の世界的經濟戰に打勝つにあらざれば現下の不景氣を一掃し經濟國難を匡救することは絶對不可能な事であつて經濟國難の打開は其の根底をなす國民の經濟觀念の確立が緊急焦眉の問題であります。

我が「東北商工時報」は如上の如き主張信念の下に全縣下の商工業者農民労働者等の機關としてその經濟思想と實際生活の改善振興を圖らんとするものであります。我福島縣は明治の初期故磐州先生等を初め幾多の憂國の志士が自由民權の大義を高唱し憲政發祥の地として天下に其名を知られたる歴史を有して居ります。今や經濟國難の重大時機に當つて此難局を打開し國民生活の安定を期するは正に產業界の革命であり經濟界の第一維新であり此劃的重大事業を完成するは自由民權の全祥地としての我福島縣民の一大任務であり國事に盡瘁したる先輩諸氏に對する責務であると信じます。此秋に當つて吾社發行の東北商工時報は毎に政治及商工業家の機關として努力を拂つて居るけれども未だ所思を達する能はざるを遺憾とするのである。今後各位の爲め微意を盡さんとするのである。諸氏亦一層の後援と鞭撻を賜はらんことを希ふのである。一言以て一週年の祝辭に代へんとするのである。

東北商工時報社

堀越梅吉

補欠政戦は

何を教えたか

棄権三割四分といふ驚嘆油乘らす遂に記録破りの棄すべき記録をのこして今度権者を出し、比較的熱心な補欠政戦は終了した、而る有権者のみ投票場に現はして當年の國士赤坂翁は敗れ、何等の變哲もなく投票軍の將となつてものと隠者は行はれたに過ぎない。に還元した赤坂翁の心境は殊に五・一五事件のテロに成敗利鈍に超越して平然冷事件を契機として所謂既成然たるものであらうが一方政黨に對する國民の信頼地翁を擁立した政友會としてに墮した今日ではあり、有は無念やる方あるまい。

由來石城に於ける政友會の感興は著しく減殺せられ抹勢力は半として抜く、から消された結果は勝つてもざる絶對壓倒的勢力でつた素破り感激起らず敗れてされば一人の貴族院議員をも亦平然冷然たるものがあ有し二名の代議士を出して締々たる餘裕を誇示して來た。

政界春秋

齋藤老首相 政民兩黨

すべからば排撃すべきか又喜盡力したかの一證左であるふべきが愛ふべきか、記者斯くの如く奉仕の觀念旺盛者は言ふ所を知らない唯大衆が所謂選挙や政治に對し對的的支持を得て區長として目前の生活を第一として萬年區長として推戴するは營々彼を顧みる寸暇なれば十區民の幸福あらねばきまでに生活餓死線に沈没する有様の痛嘆すべき事柄であると思はれる。此後の政戦に對する序曲として此度の棄権を觀る時我等は深甚なる考慮を拂はざるを得ない政戦の乘訓教示多々ありと云へども記録破りの棄権の一事に對して「何が有権者を棄権させたか」に想ひ至る時、政治に關心をもつ殊に政黨政治家諸君の深慮を熱望し反省を求むる次第である。

第十區新川町

前區長 長小次郎氏を

再選せしめよ

かくの如き勢力の背景をなすものは多年落養の地と豊富なる金權の力であつたしかるに近年石城政友會金權の淵源と政黨不信の結果は國實の名士赤坂翁を以てしても如何ともする事能はず、大勢の至らしむる所民の絶對信望を博して本月遂に此度の敗戦となつた。殊に從來の選挙戦術と異なり候補者夫れ自分、赤坂草野兩氏共清貧を看板とする政黨人ではあり黃國を撤の功績赫赫たるものがあるかんとしても之れを行ふ能はず選挙ブローカーは活躍出來ず、投票は買収する事能はず、更に補欠戦の事とて有権者の熱昇らず、就中農、漁繁期を控えて政戦に建設費

長 小次郎氏は第十區新川町區長として一意専心區民のために献身し來り、區民の絶對信望を博して本月廿七日満期となつた。

長氏は平材木商組合長として斯業界のため盡力し其の功績赫赫たるものがある。氏は第十區のため諸種の奉仕的德行あり、一例せば左の如き事である。

一金百八拾六圓九十九錢也
 ホース置場兼夜警詰所建設費

一金貳拾四圓八拾六錢也
 ホース小屋建設に付鳥居移轉及コンクリート塀修理其他費用

一金參拾五圓七十八錢也
 昭和五年十月ホース小屋大神宮境内より吉田庄次郎氏宅地内に移轉費用

右合計金貳百四十八圓七十三錢也内金貳拾七圓也
 差引金貳百貳拾壹圓六拾參錢也

右金額は長氏の立替金にして如何に氏が區民のために

世は將に非常時

世界總排日本の事實は世界の隨廷に見る日本は孤立せざるを得ず自主獨立せざるを得ず、一日も早く弟妹國滿洲國を富強たらしめざるを得ない。一日も早く世界最優秀最強大の國防軍備を完備せざるを得ないといひ三度の飯事を二度にしても武装日本の防備をせねばならぬ。

日本青年は

殊に智識青年者は外來思想の主義かぶれをやめブルの子女は戀愛遊戯をやめ祖國日本の眞姿を見ねばならぬ、一元的愛國運動に歸一して世界最強日本の創建に汝の一錢を投せよ。

鐵興社

活性二酸化滿俺發賣 乾電池界に大革命

資本金五拾萬圓の株式會社關係等に合金の需
社「鐵興社」は本社を東京要が激増したと同時に内地
市京橋區三ノ四に置き工場鐵鋼品の市價が騰し加之
の策源地は山形福島の兩縣合金組合の生産販賣統制が
に三ヶ所設置して關東北に確立せるため同業界に非常
巨り工業界の大舞臺に一大な活況を呈し來れるため從
飛躍を試むるに至り隆々たる來相當の成績を擧げて居た
る其發展振りは製品には堅
實を加へ工業界に野視せら
るゝ處である。社長として
敏腕を揮ひつゝある。佐
野隆一氏は東京工大加藤與
五郎博士の發明に係る不變
乾電池の原料たる人工活性
二酸化マンガン特許製造を
試製中であつたが同製品良
好なので各會社商店にては
製品全部を取扱ふことにな
つた。同製品加藤博士指導
の下に同社の人々依つて熱
心に研究を遂げたもので從
來のものに比し細粒なるた
め使用法を指致する必惡は
あるが本品使用の乾電池は
放出電氣容量大にして壽命
長く在來品に比して極めて
優れた性能を有するもの
であり、我乾電池界に一大
革命を齎らすものとされて
層の同社の厚鑽は栃木縣及
北海道の同社優良マンガン
礦區を利用し之にアルカリ
處理を加ふる特許製品たる
關係上他の到底競争し得な
い處である、

過酸化曹達入荷す

株式會社鐵興社山形電化廠を展開する事になるであ
工業所では既報の如く過酸らうと云はれてゐる、同社
化曹達のソーダ製造完成を以て更に青化ソーダ其他の
見るに至り其の市場進出如工業藥品類の製造に着手す
何は頗る注目されてゐた處る事なる模様であつて今
であつたが關西方面へ入荷後の成行きは頗る注目され
を見るに至つた、之によつて
同社製品は本格的に販賣

醫は仁術を體現する

石川 松樹氏

石川氏は明治二十二年本一として患者に接してゐる
郡三坂村上三坂に生れ、三
坂小學校卒業後相馬中學校也」を如實に體現する醫師
であり、我乾電池界に一大
革命を齎らすものとされて
層の同社の厚鑽は栃木縣及
北海道の同社優良マンガン
礦區を利用し之にアルカリ
處理を加ふる特許製品たる
關係上他の到底競争し得な
い處である、

謹告

本紙は

が一二月頃の冬季湯水に當時時問題掲載し得る。旬き虚構の事を宣傳するもの
り他社が電力供給激減に惱刊新聞にして正しく明るい
む最中建設中の同社、福島新聞道の樹立を念願しつゝ、
縣伊達の新工場が本年三月郷土警城の文運に献せん素
完成して月産七十越餘の硅
素鐵増産を見るに至つたの
下社業一層盛況を加へ組合
外の目先需要當ての競争製
品などを完全にリードして
確實なる成績を擧ぐるに至
り業界注視の的となつたの
である。

◇竹貫村電話協議番號◇

- | | | |
|-----------|-----|-------|
| 柏屋 | 電話一 | 矢内英次 |
| 柳屋 | 電話二 | 近内光美 |
| 丸見屋 | 電話三 | 綠川豊一 |
| 網屋 | 電話四 | 竹貫村役場 |
| 柏屋 | 電話五 | 渡邊知勝 |
| 柳屋 | 電話六 | 辰巳屋旅館 |
| 丸見屋 | 電話七 | 矢内常吉 |
| 網屋 | 電話八 | 福南自動車 |
| 竹貫村電話協議番號 | | 竹貫營業所 |

- | | |
|--------|------------|
| 宗田利助 | 收入役 |
| 田中信次 | 柳倉町 |
| 町會議員一同 | 東白川郡 |
| 江口伊六 | 石城郡上三坂郵便局長 |
| 佐川義房 | 田子四郎治 |
| 菊地常吉 | 東白川郡瑞川向 |
| 白坂章 | 鈴木科醫院 |

- | | |
|-----------|--------|
| 石川郡淺川荒町 | 白川屋旅館 |
| 東白川郡棚倉町 | 渡邊松太郎店 |
| 東白川郡棚倉町 | 柳屋吳服店 |
| 東白川郡瑞町 | 丸屋旅館 |
| 東白川郡瑞町 | 小川屋吳服店 |
| 東白川郡瑞郵便局長 | 秦春次 |
| 東白川郡笹原 | 鈴木要 |
| 東白川郡笹原 | 小峯堅藏 |
| 東白川郡石井村 | 美那登屋旅館 |
| 東白川郡支店 | 渡邊秀治 |
| 東白川郡瑞川向 | 西島旅館 |

- | | |
|---------|-------|
| 石城郡上三坂 | 扇屋旅館 |
| 東白川郡竹貫村 | 辰巳屋旅館 |
| 東白川郡瑞川向 | 鈴木旅館 |
| 東白川郡瑞川向 | 大池康義 |
| 石川郡蓬田村 | 山田屋旅館 |
| 石川郡蓬田村 | 坪井福定 |
| 石川郡蓬田村 | 荒川清 |
| 石川郡宮本村 | 水野政三 |
| 郡山市大町 | 丸伊吳服店 |
| 近津驛長 | 大和田泰治 |
| 石井驛長 | 市毛祐宗 |

- | | |
|---------|---------|
| 東館驛長 | 大沼忠藏 |
| 豐里村消防組頭 | 金澤壽 |
| 料理旅館 | 花屋 |
| 鐵道省指定旅館 | 那須屋旅館 |
| 警備隊驛長 | 長島寅吉 |
| 石川郡蓬田村 | 石城三坂組合村 |
| 石川郡蓬田村 | 澤渡村會議員 |
| 石川郡蓬田村 | 荒川清 |
| 石川郡宮本村 | 水野政三 |
| 郡山市大町 | 丸伊吳服店 |
| 近津驛長 | 大和田泰治 |
| 石井驛長 | 市毛祐宗 |

- | | | | | | | | | | |
|------|------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 藥谷直義 | 藥谷長吉 | 內藤久 | 佐藤一 | 安山 | 永藤 | 佐藤 | 大竹 | 大田 | 石川 |
| 谷藤 | 谷藤 | 藤部 | 藤部 | 藤部 | 藤部 | 藤部 | 藤部 | 藤部 | 藤部 |
| 直義 | 長吉 | 久 | 一 | 山 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 |
| 義 | 吉 | 一 | 山 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 | 藤 |

新秋窓を訪問
保養最良の秋

二大温泉郷を紹介す



沼尻 熱塩

沼尻中の澤温泉

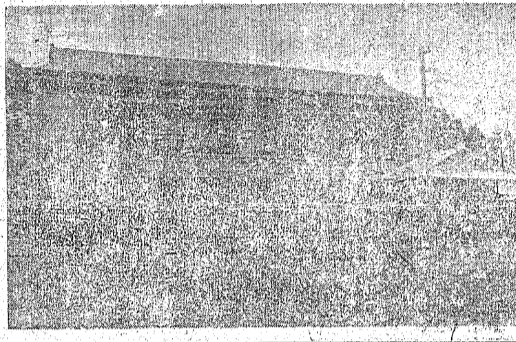
東北本線郡山驛より磐越西線に乗り替えて一時間磐佛の雄姿を千古の謎を秘めた碧水に映發せる邊に川桁驛がある此所より耶麻軌道に乗替えて磐佛と安達太郎山との盆地を走ること四十分、沼尻の仙郷に着く。

沼尻温泉は中の澤、沼尻横向の三湯に分れ海拔三千尺の高地に散在し、温浴にキャンプにスキーに最適の養生保健の泉郷である。

有名な沼尻スキー場は大正八年早大山岳部によつて創始され總面積二萬坪あり初歩練習コース、普通練習コース、レースコースの三つに分れ理想的スキー場として全國銀界のキングである。

休憩所やシャンツエ等の諸般も完く雪は粉雪にて沓踏堅く一月上旬より二月下旬までは平均四尺の積雪ありスキー期間は十二月より三月までである。

至便の地位にあり中にも朝日屋西村屋等はスキーヤーの來場と浴客の殺到を納首



つづみある、又耶麻軌道部が新設した沼尻スキー場は理想的のキャンプ場を設けシヤンツエの高さ二米半、幅八米、アグローチ七十四米半、ランタンダ百十二米、一ル外百米で此の外高さ二十米の鐵骨審判臺あり又電氣揚揚装置の指導標は近々落成の運びに至り東北一の理想的スキー場並に温泉場として知らる。

熱塩温泉

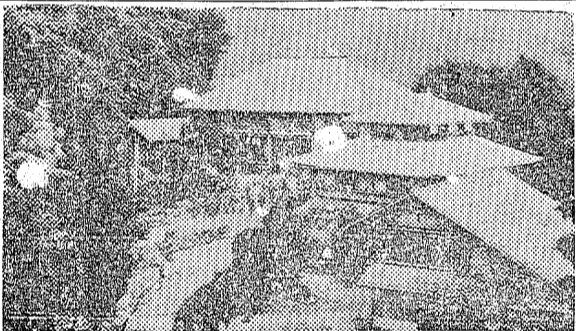
熱塩温泉は千余年前大同二年僧空海上人が加持に依

仙郷

湯岐温泉 志保野温泉

理想の地 養生の地

東白川郡湯岐温泉は天文利な地點にあり殊に同温泉三年和泉守大森家次の時代は風光の絶佳なるは容易に筆舌に盡し能はざる程で西年々東京茨城千葉及各地より北は緑滴る如き山岳を背景り萬全の浴客を收容し股賑にし東南一帯は果てし盡きを極めてある我湯岐温泉はざる山間にして鬱然として水郡線石井驛より一里二十樹林の密生する山麓を控へ丁勤王美談小松風で有名な春は四方の山嶽紫雲を纏ひ塙宿よりも一里三十丁で自東風綠芽を吹く時驚來りて動車に各驛共四十分位で到春を諳へる夏は雨來らざる有すると云ふ至極交通の便も冷風あたり満ちて暑さ



【湯岐温泉全影】

温泉質は無色透明異臭味なく諸病効驗あり、縣衛生

改善された諸般の設備と天を知らず秋は連山の紅葉寝課の分析に據れば、一、硫化水素〇〇〇一五一炭酸一、格魯兒僅少一硫酸主酸僅少一石灰。

改善された諸般の設備と天を知らず秋は連山の紅葉寝課の分析に據れば、一、硫化水素〇〇〇一五一炭酸一、格魯兒僅少一硫酸主酸僅少一石灰。

湯岐温泉より約三十丁位の所にあり

【志保野温泉全影】坂を上り下る女達に逢ふ事など中々に風情ある趣である。浴場は大森耕太郎氏の經營する所浴客を收容する事が出来る。

鈴木要氏の經營 せる志保野温泉は湯岐温泉より約三十丁位の所にあり

志保野温泉の効能 縣衛生試驗所の報告に據れば、溫泉攝氏二十九度、調節、リウマチ慢性混疹ヒステリ及び神經痛脈病、胃腸病、婦人生殖器の慢性諸病等効驗

會津沼尻 西村屋旅館 朝日屋旅館 花見屋旅館 扇屋旅館 白城旅館

沼尻温泉 田村屋旅館 磐城屋旅館 瀧川屋旅館 會津熱塩温泉 笹屋本館

笹屋別館 升屋旅館 山形屋旅館 吉田屋旅館 海老屋旅館

石川郡淺川村 村長 矢吹勝之助 村會議員 (順不同)

金澤己之助 渡邊充 江田森治 大戸六郎

雙葉郡木戸村 材木商 石川淺次郎

雙葉郡木戸村 木炭精米 渡邊操商店

雙葉郡廣野村 内科 外科 小兒科 産婦人科 野村醫院

相馬郡原町 鍋屋號 度量衝 萬金物 佐藤清四郎商店

相馬郡小高町 内科 一般 鈴木醫院

吾妻榮治 小針啓一 近藤正雄 石田重次郎 角田象雄 生田目巖 小濃米藏 佐川義武 川音英之助 大谷喜一郎 鈴木喜藏

祝一週年記念

<p>東白川郡高城村 村長 佐藤庄太郎 助役 松本千代松 役入 戸田富二 村會議員(順不同) 金子 澤 正 松本 勇之助 金澤 金一 郎 鈴木 英亮 佐川 積善 緣川 甚太郎 菊地 一 郎 佐藤 兵一 吉成 親光 鈴木 常次 鈴木 彦之助 金澤 奧 浩 金澤 宣 松 東白川郡社川 村長 小林猪之松 助役 長田政之 役入 小林多吉 村會議員(順不同) 菊地 鶴 吉 綠川 源 治 大河内 榮之助</p>		<p>東白川郡常豐村 村長 藤田賢次郎 助役 荒川武雄 役入 尾又政一 村會議員(順不同) 青砥 一 壽 益子 千代松 上妻 龜 吉 生方 勝 治 近藤 永 昌 江口 伊 六 藤田 半 次 藤元 縫之助 白坂 勇 次 近藤 住 王 東白川郡石井村 村長 鈴木宗治 助役 鈴木才一郎 役入 村會議員(順不同) 菊地 惇 二</p>		<p>東白川郡高野村 村長 鈴木宗司 助役 岸波彌兵工 役入 尾又政一 村會議員(順不同) 吉田 氣 壽 鈴木 初 吉 綠川 政 雄 鈴木 助右工門 吉田 德之助 原 德 之 助 鈴木 芳 太郎 原 岡 三 綠川三五左工門 近藤 八 郎 武藤 謙 治 吉田 倫 治 東白川郡笹原村 村長 鈴木喜廣</p>		<p>東白川郡近津村 村長 戶部平藏 助役 下重衛門 役入 武地義三 村會議員(順不同) 甲田 善 衛 高野 菊 太郎 古市 八百三郎 陣野 春 吉 奧原 益 之 石川 泰 造 菊地 武 次 金澤 重 雄 下重 千代太郎 佐川 政之助 藤田 喜 一</p>		<p>東白川郡宮本村 村長 瀨谷清藏 助役 水野艶信 役入 村會議員(順不同) 沼野 龜 吉 鈴木 德右工門 生方 子之次郎 蛭田 照 吉 鈴木 新太郎 須藤 市 壽 高宮 爲 一 蛭田 季 吉 金澤 長 太郎 高宮 秀 家 生方 辰 吉</p>		<p>東白川郡鮫川村 村長 芳賀金之助 助役 村會議員(順不同) 矢野 宗 秋 山口 龜 治 矢野 友次郎 生田 友次郎 水野 德 治 大平 敬 助 有賀 小 太郎 高橋 倉 次 坂野 木喜久治 坂本 四 郎 青柳 藤 重</p>		<p>東白川郡豐里村 村長 高信正明 助役 益子彌市 役入 高信定之助 村會議員(順不同) 鈴木 市 郎 佐川 義 房 小室 傳 俊 大瀧 庄 吉 大森 光 之助 豐田 儀 武 落合 儀 作 須田 勝 治 金澤 壽 洗 金澤 宗 彌 藤田 宗 彌 小井戸 島之助 石川郡小平村 村長 上遠野健之助 役入 矢吹勘助 役入 矢吹定好</p>		<p>石井元次 石井元 石井元 星 勇 造 上遠野政謨 三 森 再 吉 關 根 龜 藏 大 沼 一 二 遠藤 十郎衛門 吉田 金 次 三本 松清信 關 根 文 郎 遠藤 義 人 佐藤 信 平 佐藤 作 重 二 瓶 仲 次 石川郡蓬田村 村長 久保木久治 役入 村會議員(順不同) 鈴木 與 作 上遠野武右工門 大和田 貞 良 蓬田 品 吉 瀨谷 辰 二 阿部 德之助 阿部 德 之 助 澤村 豐 松 遠藤 清 松 生田 目 忠 造 宗 像 金 光 阿部 貞 三 小澤 林 院 小林 信之 三 坂 村 石川 醫院 院長 石川松樹</p>	
---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--	--	---	--